



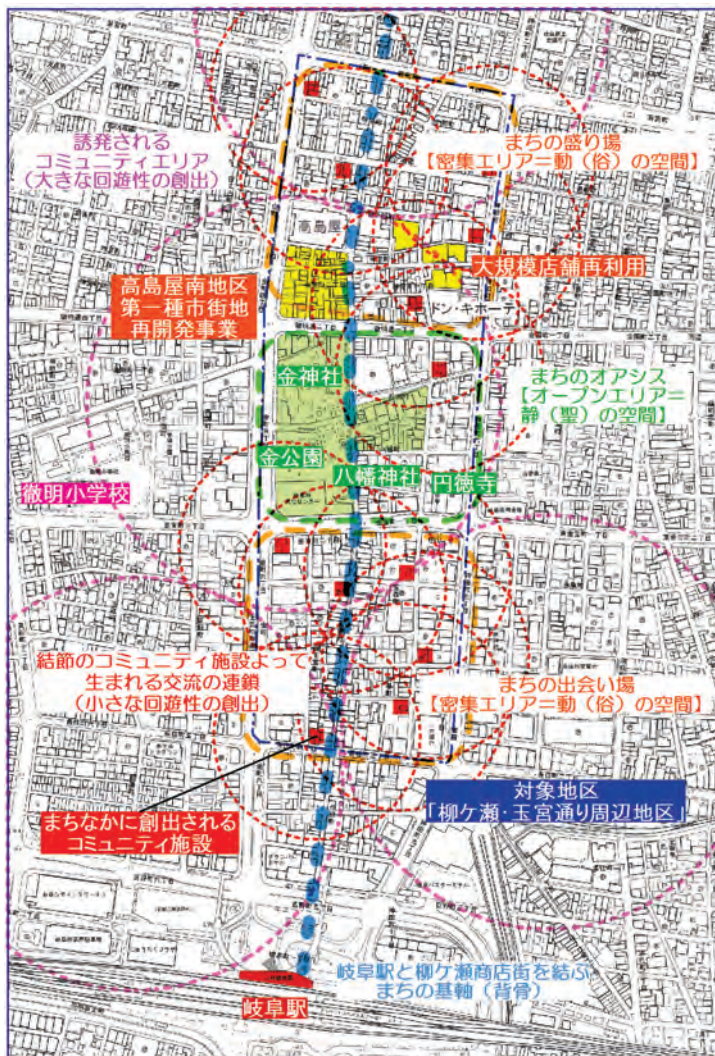
共に生きる・活きる暮らし

～人の暮らしがみえるまちなかの Re・Design～

人々の暮らしがみえる豊かなまちなかの風景（生活環境）は個々の想い・つびやきから発し、他者（人々・動物・自然など）と共生しながら協同して紡ぎ出される活動や空間によって形づけられます。しかし、都市化が進む現代社会において開かれた公・協の活動は閉じられた個（孤）単位での活動へと変化し、車社会や情報化社会の到来は地域社会やコミュニティでの活動より家族や個（孤）単位での活動を促進させました。

本計画では、岐阜の中心市街地である柳ヶ瀬エリアをベースに、人々の暮らしがみえるまちなかの Re・Design として、『まちなかのコントラスト』（コミュニティエリアによるまちの回遊性、エリアによるアイデンティティ、ハレとケの風景一静・聖と動・俗）を演出し、インナーシティ問題及びまちなか居住への対応として「コーポラティブ方式による協同・協調再建」を行い、参加と協同（働）による居住者参加型の住まいづくりと、まちづくりとしての種々のコミュニティ空間を生み出し『まちなかの居住と賑わい』を創出し、共に生きる・活きる暮らしを実現します。加えて、柳ヶ瀬エリアで問題となっている空き店舗の増加、中でも大規模空き店舗においてはコンバージョン（用途変更）を行い、専門学校や体験型教育・学習空間、若者が楽しめるアミューズメント空間、起業家のための商業・業務空間、子どもや高齢者・障がい者のための福祉・就労空間を居住空間と共にしつらえ、さらに柳ヶ瀬商店街のアーケードについても人々の暮らし・活動がみえる Re・Design を行います。

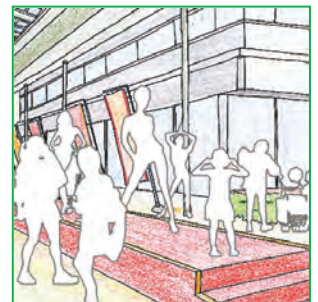
人・活動・空間・時間とコミュニティが相互に浸透し、育み合う関係性を構築することで点から線へ、線から面へ循環し合う空間を構成し、品格を創出しつつ、賑わいに溢れ、誇りや愛着の持てるまちづくり・まち育てを岐阜市「柳ヶ瀬・玉宮通り周辺地区」で提案します。



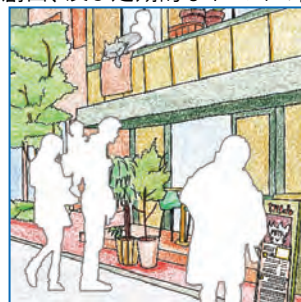
結節に生み出されるコミュニティ施設によって広がるコミュニティエリアの創出とまちなかのコントラストの演出は人々の暮らしに抑揚を与える。



柳ヶ瀬エリアにおける大規模店舗の再生・再活用と職住近接のまちなか居住の促進、柳ヶ瀬本通りにおけるアーケードの再生。



金公園エリアのオープンエリアによるまちなかのオアシス空間の創出、及び定期的なイベントの開催。



玉宮エリアにおける駐車場や低未利用地の活用により生まれる半地下の店舗併用住宅はまちのアイデンティティを生み、居住者同士、居住者と来街者の出会いを促す。

